

アカゲラ通信



日本国と47都道府県の鳥

日本の国鳥はキジ。1947年日本鳥学会により制定。ただし国として正式なものではありません。

今回は47都道府県の鳥のお話。亜種も含め34種が（重複あり）決められています。一覧表はこの記事の最後にあります。

◎一覧表に漢字表記されている青森、宮城、島根、神奈川、徳島は特定の種を定めておらず、前3者は県内にそれらの有名な越冬地があり、後2者は種を問わず県内で広く親しまれているものです。

◎旭山でも出現記録があるのは14種。白鳥、雁、鷗、白鷺も1種と数えていますが、他の10種は何か分かりますか？

正解は、オシドリ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ、ウグイス、ツグミ、コマドリ、メジロ、モズ、カササギ、です。



メジロと桜（東京都にて）

◎一覧表を見ると、「その地域に生息地がほぼ限定される希少種」か「その地域で広く親しまれている普通種」のどちらかに概ね分類され、後者の方が多いことが分かります。

◎北海道の鳥タンチョウは1964年に制定。その3年後に国の特別天然記念物に指定されました。当時は200羽弱でしたが、保護活動が続けられた結果、現在約2,000羽にまで増えました。

◎埼玉のシラコバトと佐賀のカササギは元々日本には生息していないかった外来種です。シラコバトは江戸時代、カササギは17世紀

に海外から移入し放鳥されたものが野生化しました。どちらもかつて一時生息数が減少したため、両県ともその生息地が天然記念物に指定されました。なお、カササギは苦小牧を中心に野生化し分布を広げていますが、それらは20世紀以降に外国から入ってきたものです（人為説と自然説あり）。

◎埼玉のシラコバトは「コバトン」、大分のメジロは「めじろん」として県公式マスコットキャラクターになっています。他にも福島復興のシンボル、キビタキの「キビタン」など、その県の何かのマスコットキャラクターになっている鳥もあります。

◎岡山は以前ホトトギスでしたが、托卵鳥というイメージがよくなないと再検討され、1994年に県民投票により新たにキジになりました。桃太郎ゆかりの地岡山でキジが選ばれたのは納得です。

◎東京都のユリカモメは「都鳥（みやこどり）」として和歌などで古くから親しまれてきましたが、シギチドリの仲間にミヤコドリという別の鳥もいます。

◎エナガ、シマエナガを選んでいる都道府県はありませんが、今北海道で人気投票を行って決めるシマエナガが選ばれるかもしれません。



ホオジロ、3月下旬に旭山に来る夏鳥



「みやこどり」ことユリカモメ（東京都にて）

日本:キジ	北海道:タンチョウ	青森:白鳥	秋田:ヤマドリ	岩手:キジ	山形:オシドリ
宮城:雁	福島:キビタキ	茨城:ヒバリ	栃木:オオルリ	群馬:ヤマドリ	埼玉:シラコバト
千葉:ホオジロ	東京:ユリカモメ	神奈川:鷗	新潟:トキ	山梨:ウグイス	静岡:サンコウチョウ
長野:ライチョウ	岐阜:ライチョウ	愛知:コノハズク	三重:シロチドリ	富山:ライチョウ	石川:イヌワシ
福井:ツグミ	滋賀:カツブリ	奈良:コマドリ	和歌山:メジロ	京都:オオミズナギドリ	大阪:モズ
兵庫:コウノトリ	岡山:キジ	広島:アビ	山口:ナベヅル	鳥取:オシドリ	島根:白鳥
香川:ホトトギス	徳島:白鷺	愛媛:コマドリ	高知:ヤイロチョウ	福岡:ウグイス	佐賀:カササギ
長崎:オシドリ	大分:メジロ	熊本:ヒバリ	宮崎:コシジロヤマドリ	鹿児島:ルリカケス	沖縄:ノグチゲラ

レストハウス「ぼるく」は4月より営業します
噴水も4月下旬より運転開始します

旭山野鳥メモ④ツグミ

ツグミ Dusky Thrush *Trudus eunomus* スズメ目ヒタキ科

日本でおそらく最もなじみの深い冬鳥。主な繁殖地はシベリア。

北海道には10月に北から渡って来て1月までは数が多いが、厳冬期大半が南に移動し数が少なくなる。春先にまた増え5月に北に渡去。

冬が進むにつれ街路樹のナナカマドに来る数が多くなる一方、旭山では冬の初めに多いがだんだん少なくなる。南行も理由のひとつだが、山の食料が少なくなると平地に餌を求めて出向くようになるらしい。

「キキーツ」「キューイ」という高い声で飛びながら鳴きすぐ分かる。

繁殖をしない日本で囀りはしないが、春先に稀に朗らかな声の「ぐぜり」を聞くことがある。

雪解け時には地面で餌を探す姿がよく見られ、その際、両足揃えてピヨンピヨン跳ねるほか、人間のように左右の足を交互に出して歩くこともある。翼の茶色が印象的だが全体に色の個体差が大きい。

ハチジョウツグミとは現在亜種の関係だが、将来的に両者は別の種になると見込まれている。

中部地方などではかつて盛んに食されていたが現在は捕獲禁止(そもそも野鳥は狩猟鳥以外捕獲禁止)。

2021-22年の冬はツグミが少なかったが、22-23の今冬は多く見られた。ただ北からの渡来が12月と今まで最遅だった。繁殖する北方圏の気候のバロメーターとして今後も注視してゆきたい。



2023年3月の野鳥トピックス

3月下旬にはホオジロ、モズ、キジバト、ヤマシギなどの夏鳥がやって来ます。

・シマエナガ: イタヤカエデの樹液が出るのが2月の寒さで今年は遅く、3月に入って漸くイタヤカエデの周りに集まるようになってきました



・クマゲラ: 園内で見られる機会が多くなってきました

・ヤマゲラ: 観察機会が増え、近くで見られることもあります

・オオアカゲラ: 観察機会は多く雌を見る機会が増えてきました

・アカゲラ: 「キヨキヨキヨ」と激しく鳴いているのが時々観察されます

・キクイタダキ: 観察機会が減りましたが春先に増えると思われます

・ウソ: 3月に入り数羽の群れがときどき見られるようになりました

・マヒワ: 少ないですが日に何度も見られています

・キバシリ: 園内でときどき見られ囀りもしています

・カケス: 「ジェーイ」という声を日に何度も聞きます

●3月の囀り始め: シジュウカラ、カワラヒワ、2月までにハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ(盛ん)、ゴジュウカラ

それで、イタヤカエデって？

春先に鳥たちが樹液をなめに集まる「イタヤカエデ」について短くまとめてみました。(下写真中央は冬芽、対生)

・イタヤカエデはムクロジ科、北海道では平地から山地で普通に見られます。旭山では変種アカイタヤも多く見られ、葉の形が違います

・5月上旬に小さな黄色い花が多く咲きます(右写真左上)
・秋には葉が黄色く色づきます(右写真右上、遊具広場)。
・種子(左写真)には風に飛ばされやすいように翼がついていて、シメやウソ、エゾリスが好んで食べます

・材は固くて丈夫、楽器や工芸品などに広く使われます
・春先に出る樹液はなめるとほのかに甘い。ただメープルシロップを作るサトウカエデより糖度が低く、より煮詰めてシロップを作ります
・イタヤカエデの樹液は、シマエナガやヒヨドリをはじめ、アカゲラ、コゲラ(右写真右下)、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ゴジュウカラなど多くの鳥たちや、エゾリス(右写真左下)が飲みに来ます

